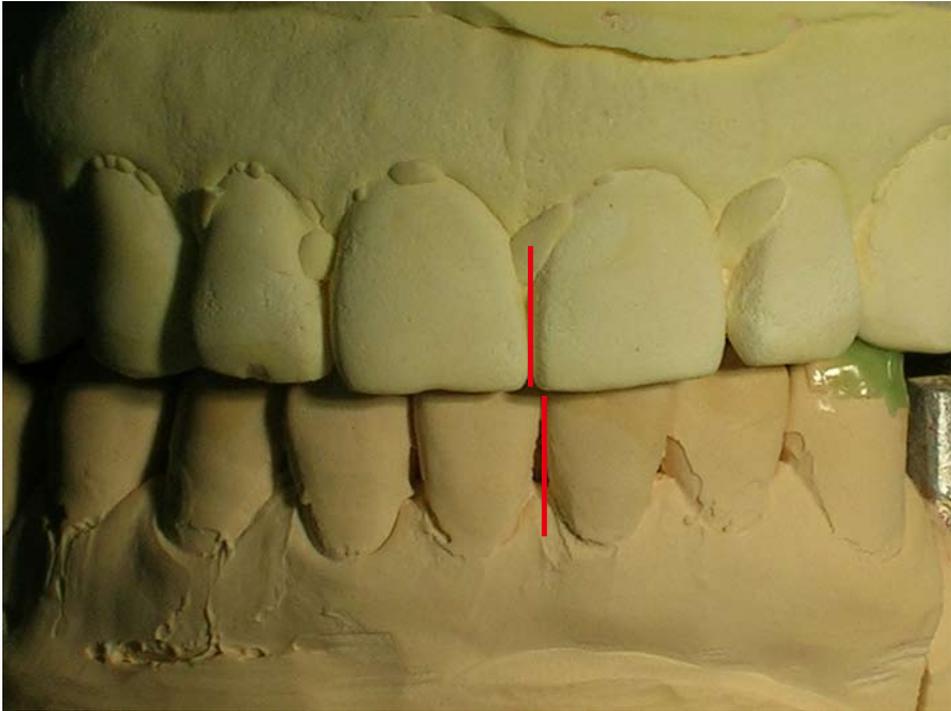
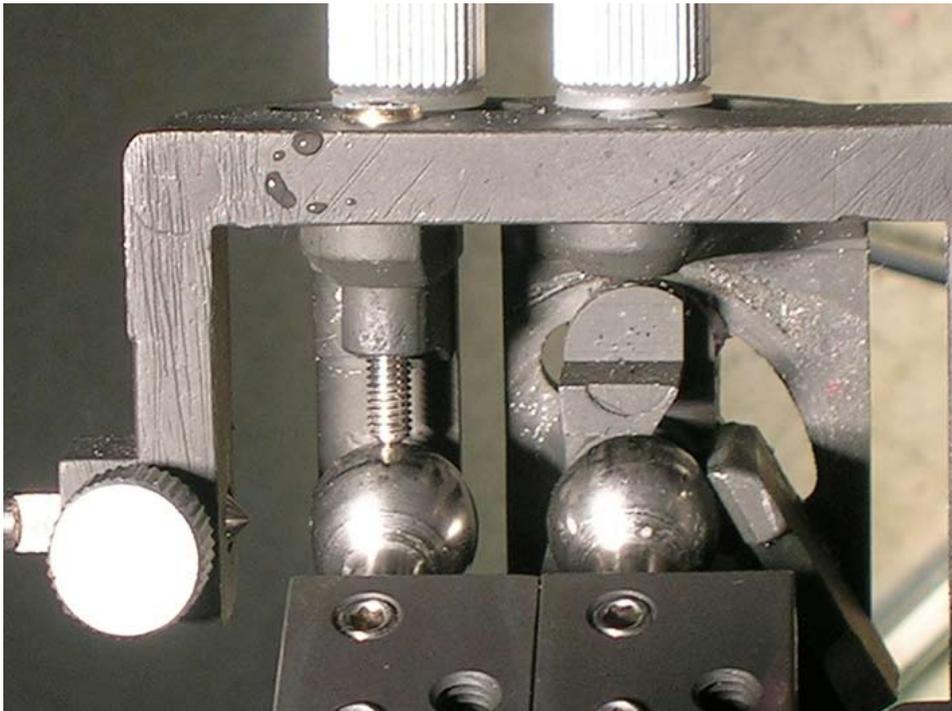


## Clinical Case #4



下顎が左側に偏位している



左の顆頭球を前方に押し出すことにより



下顎を右に移動させて、上下正中を  
合わせることができる。



犬歯と第一小臼歯は左右位のストッパーである



上下正中を合わせて下顎45を製作すると、  
下顎が右に移動するために  
左側の上下犬歯は空いてくる。





下顎の犬歯唇面にコンポジットレジンを追加。  
上下の正中は一致した。  
患者さんの左側身体症状（肩こりと手の痺れ）は  
改善された。

（叢生などの影響で正中一致が常に正常顎位とは限らないから、要注意である）

正中を一致させたいとき、患者に正中顎位を取らせて  
咬合採得を採取することは困難である。  
感情・感覚を有する生体は従来の顎位に  
戻ろうとするからである。

（本症例は、一挙に顎位修正を行なったものではない。ここに至るまでの  
準備期間があり、また右側の斜面に乗ったような咬合不安定の違和感  
から自然感に至るには更に一ヶ月の観察期間が要された。本症例の提示は  
顎関節症の治験例示というよりは、咬合器による正中一致の調節の例示を  
目的としている）